

水稻新品種「きらみずき」の栽培技術習得

対象者 水稻新品種「きらみずき」栽培者

【普及活動のねらい】

令和5年度より、「化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培」または「オーガニック栽培」が栽培条件となっている、水稻新品種「きらみずき」の栽培が始められました。

管内においても今回初めて3名(251a)の生産者が有機質肥料での肥培管理や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培について取り組まれたことから、重点的に技術支援を行いました。あわせて、次年度に向けて、作付けの推進を行いました。

【普及活動の内容】

「きらみずき」生産者への栽培技術支援

「きらみずき」の栽培暦を基本とした実証ほを設置し、技術支援を行いました。また、7~10日ごとに各生産者のほ場を巡回し、生育状況の提供(画像で生育経過を提示)をするとともに、生産者とほ場を巡回し、病虫害発生状況の把握と穂肥施用や収穫の時期についての検討を行いました。

収穫後、今年の栽培経過や収量結果から、次年度の取組について検討しました。

新品種「きらみずき」の周知・作付けの推進

グリーンカルチャー「こうか」(管内向け広報誌)や小麦、大豆の研修会の際に、「きらみずき」の特徴や栽培方法について周知しました。

また、JA こうか特別栽培部の研修会や「きらみずき」説明会で、次年度の栽培の取組について誘導を行いました。



生育状況の提供(抜粋)



現地技術支援風景

【普及活動の成果】

これらの活動により、実証ほの収量は、地域の慣行並みの収量である10aあたり510kgと目標収量を達成しました。生産者3名については、有機質肥料での肥培管理や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培について理解を図れました。また、10月に開催した「きらみずき」説明会では、43名の生産者の参加がありました。

引き続き、「きらみずき」の安定生産栽培に向けた技術支援を行っていきます。

◎対象者の意見

有機質肥料での肥培管理等、慣れない栽培であったが、納得いく収量結果となった。次年度も引き続き取り組んでいきたい。(実証ほ生産者 K氏)